

大通公園、 100歳。

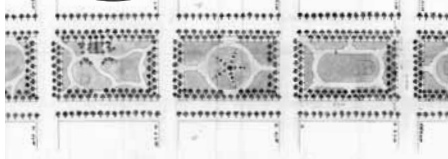
大通公園 100周年

市民の憩いと、にぎわいの場である大通公園の原型が誕生してから、今年で100周年を迎えます。札幌市民にとって欠かせない都心のオアシスは、どのような軌跡をたどってきたのでしょうか。この特集では、100年の歴史やこの秋のイベントを紹介しながら、大通公園のこれからについて考えていきます。

大通公園に関するお問い合わせは
みどりの管理課 ☎211-2536



←大通公園を設計した
長岡安平



↑長岡が描いた設計図
(公益財団法人東京都公園協会所蔵)

この間、時代を反映して姿を変えながらも、大通公園は現在に至るまで、「都心のオアシス」として市民に愛され続けています。

大通はその敷地の広さから多目的に利用されるようになり、明治30年代には植栽や築山も見られました。明治44年には、公園造りの先駆者である東京市技師の長岡安平によって植栽や園路などの本格的な整備が施され、現在の大通公園の原型が出現しました。この時から今年はちょうど100周年になります。

「大通」が札幌に登場するのは、明治2年のこと。火災の延焼を防ぐ「火防線」として造られたといわれ、近年は街を南北に分ける土塁（盛り土）を作る目的で設けられたという説もあります。

国際交流ゾーン

大通公園の 見どころ

3丁目



本郷新の「泉の像」がある公園のシンボリックブロック。噴水は昭和37年と平成3年に、当時の北海道拓殖銀行が寄贈した。

2丁目



多数のベンチとプランターを配置した広場の北側には、オレンジ色の花が美しい「アメリカノウゼンカズラ」が植栽された壁泉がある。

1丁目



大通公園は1丁目から12丁目までで、テレビ塔の部分は含まない。北側（現在NHKのある区画）にはかつて豊平館があった。